

平塚市こくほ35歳健診の検査項目

貧血検査と心電図検査、眼底検査は、医師が必要と判断した場合に実施します。

検査項目		検査の目的・考え方
体格	身長・体重	身長と体重の割合からBMI（体格指数）を算出し、標準体重、肥満、やせの具合を調べます。 【体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出します】
	BMI (体格指数)	
	腹囲	内臓脂肪型肥満かどうか判定します。
血中脂質	中性脂肪	体内の中でもっとも多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。数値が高いと動脈硬化を進行させます。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれています。血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと動脈硬化の危険が高くなります。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれています。多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞の危険を高めます。
	non-HDLコレステロール	総コレステロール値からHDLコレステロール値を引いた値のことで、悪玉系コレステロールの総量を示しています。
肝機能	AST (GOT)	肝臓・心臓・筋肉の病気がある場合は、値が高くなります。
	ALT (GPT)	肝臓に異常がある場合は、値が高くなります。
	γ-GT (γ-GTP)	肝臓が特にアルコールによる障害を受けた場合に上昇します。一般にアルコールによる肝臓障害の指標になります。
血管を傷つけ	血圧	血圧が高いほど心疾患や脳血管疾患の発生する危険が高くなります。
	血清尿酸	尿酸が高い状態が続くと痛風になる危険があり、動脈硬化も進みます。
血糖	空腹時血糖 又は随時血糖	血液中のブドウ糖のこと。高血糖状態を改善できなくなるのが糖尿病。高血糖の状態が続くとさまざまな血管が傷つき合併症が起こる可能性が高まります。
	HbA1c (NGSP値)	食後時間に影響されにくい、過去1～2か月間の平均の血糖値を反映するため、糖尿病の診断長期間の血糖コントロールの目安となります。
	尿糖	健康時には血液中のブドウ糖は腎臓で再吸収され尿の中には出ません。しかし、血糖値が高くなると腎臓での吸収がうまくいかずに尿に糖が出やすくなります。
貧血	血色素量 (ヘモグロビン)	赤血球に含まれるヘムたんぱく質。酸素の運搬役を果たします。値が少ない場合、鉄欠乏性貧血などが考えられます。
動脈硬化	心電図検査	不整脈・心筋の肥大などの心臓の異常を調べます。
	眼底検査	肉眼で見られる唯一の血管である網膜の変化を見ます。目の病気だけでなく、動脈硬化・高血圧・糖尿病性変化等の所見が得られます。
腎機能	尿蛋白	腎臓・尿管・膀胱・尿道などの異常発見の手がかりになります。
	血清クレアチニン	老廃物の一種で、腎臓の機能が低下すると排泄できなくなり、血液中に増加します。
	eGFR (推定糸球体ろ過量)	血清クレアチニンと年齢及び性別から推算される腎臓の処理能力を示します。尿蛋白とeGFRを使って腎機能が評価できます。

健康診断を受診してご自身の体の状態を確認しましょう！